



むつみあうこころ

～えがお・元気・優しさいっぱい六北っ子～

六北小オリンピック

「仲間と全力でかがやけ!六北っ子!」

梅雨の季節。ある日のこと、前日降った雨で運動場の状態が悪く、職員室のベランダには赤旗が立ち、放課は運動場で遊ぶことはできません。運動場に出てきた子どもたちは「赤旗が立ってる…」と残念そうに教室に戻っていきます。昼放課、運動場に出てきた子どもたちはベランダに赤旗がないことを確認すると、「赤旗がない!」と満面の笑顔で運動場に駆け出し、出していました。梅雨の合間の晴れ渡る空の下、今日も子どもたちは元気いっぱいです。

先日、5月30日(土)に、令和8年度六北小オリンピックが開催されました。多くの保護者の皆様、学区の皆様にお越しいただき、子どもたちの頑張る姿、輝く姿にあたたかな声援をいただき、本当にありがとうございました。

今年度のオリンピックのテーマは「**仲間と全力でかがやけ!六北っ子!**」です。このテーマのとおり、子どもたちは、仲間と力を合わせ、持てる力をすべて出し切って演技し、走り切ることができました。その一人一人の笑顔、元気、真剣な姿はまさしくきらきら輝いていました。1・2年生の演技「**えがおいっぱい!わたしたちのいちばんかわいいところ**」。太陽の光が当たってキラキラ輝くポンポン以上に、子どもたちの笑顔がとっても輝いていて、そのほほえましさに見ているこちらにも自然と笑顔になりました。3・4年生の演技「**六北にA・RA・SHIをまきおこせ ひといからみんなへ思いをつなぐFive!**」。一人一人が持つカラフルな布が宙を



舞う様子が鮮やかで、思わず見とれてしまいました。そして子どもたちが一生懸命演技し、全力で叫ぶメッセージからは、3・4年生の元気パワーのすばらしさを感じることができました。そして、5・6年生の演技「**213人全員で魅せる本気の六北魂**」。5・6年生による「一天濤快」は、先輩たちから受け継ぐ六北小伝統の舞です。

6年生の踊りリーダーの子が次のようなメッセージを書いています。「私は見ている人を感動させるようなものにしたいです。それに今まで指導してくださった先生方や家族に感謝を伝えて、感動させたいです。」これは5・6年生の先生方が子どもたちに向けた願いから来ている言葉だと思います。一天濤快の練習が始まる日、「213人みんなで見ている人の心を動かす一天濤快にしよう。あなたたちならできる。」そう子どもたちに語り掛ける先生の姿がありました。それに

応えるように、初めて一天濤快を踊る5年生は、必死に6年生にくらいついて練習を重ね、小学校生活最後の一天濤快になる6年生は、5年生に思いを伝えながら、最高の一天濤快にしようとする毎日の練習に全力で取り組む姿がありました。

運動会前日、朝からの強風で砂ぼこりが舞う中、最後の練習に取り組んでいた5・6年生。どれだけ風が吹こうとも、砂が顔や体に打ちつけてきても、まったく動じることなく、ただひたすら真剣に踊る5・6年生を見て、**本気の六北魂**を感じました。その瞬間、本番は絶対に成功すると確信しました。



自分の心が動かなければ、人の心を動かすことはできません。最高の一天濤快にしたいと本気で全力で取り組む子どもたちは、一つのことに全力で打ち込むことの尊さ、仲間とともに一つのものを創り上げる素晴らしさを感じたに違いありません。だからこそ子どもたちの本気さが、見ている人の心を動かす「一天濤快」になったのだと思います。

オリンピックという行事を通して、子どもたちは一人一人大きく大きく成長しました。これからも子どもたちの伸びようとする芽を、教職員一同力を合わせて大切に育てていきたいと思っています。保護者の皆様、学区の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

